# 歐米ところどころ (17)

長久保俊夫

食はカフェテリアで簡バーナ〜と子供達が呼びに寄越してサイトシーインガーで市の北部を見物すつた。かく云ふ當人も最さはつきりしない日本人である。歐米何處でも一寸した都市では名所見物用の遊覽自動車があつて、格安に短時間で大勢を知るのに好都合だ。

此日は連日のバス旅行へばつて居たので、記憶、疲つて居るのは湖畔の公園にリンカーンの銅像がかかつて居つたのと、大戰記念の裝飾を施物と、湖岸の水浴場に群れて居る派手な男女の姿位のものである。同行の某君が矢張連日の疲で寝の停つたのも氣付かず睡りこけて居つて、之を見かねた毛唐から『オー、サヤイニーズ。ゲットアプ』とか云はれて肩を叩かれたりやうやく目を醒ましたのは時にとつてのお愛嬌であつた。居睡りと云へば旅行中でも我々はよく居睡る。然るに彼等は睡眠時間中の騒音は非常に嫌ふが一旦起きると居睡が減多にしない。日本人の餘裕のない生活がこんな所にも表れるのであらうか。或は植物性の主食物を摂つて居る爲めに分量が多く此の處理に多量の血液を必要として睡氣を催すのであらうか。身長の割合に胴の長いのは草食動物と軌を一にするものか。

所で憤慨に耐へぬのは一體に彼等は日本人と支那人との區別を心得て居らぬ。支那に好意を持つて居る英米ではお前は支那人かと聞くのは好意を示す事にもなるのだ。我々が白色人種中の差別が出來ないのを思へば無理もないが、此際敵愾心を高揚される程癪にさはる事はない。

獨伊では我々が通るとヤ

## 平局俳聚會

五月句會互選句集

○蒼苔の川のよどみや上りやな　猿子
○鎖傑の川一人あり上りやな　秋郎
○散る花も鯉より流る上りやな　白砂
○上りやが銀鱗躍る夜寒かな　同
○箕笠にぬれて漁るや上りやな　金七
○夕風に花屑よせて上りやな　松二
○水蕎し増し魚越す上りやな　同
『春の闇』
○春の闇泣ける頂の白かりき　碧笑
○どアノ春を遊木繁りや春の闇　同
○嫁ぐ君　歌し歩ゆめも春の闇　同

## 贈渡邊縣元水産試驗場長

珠雲　小野勝平

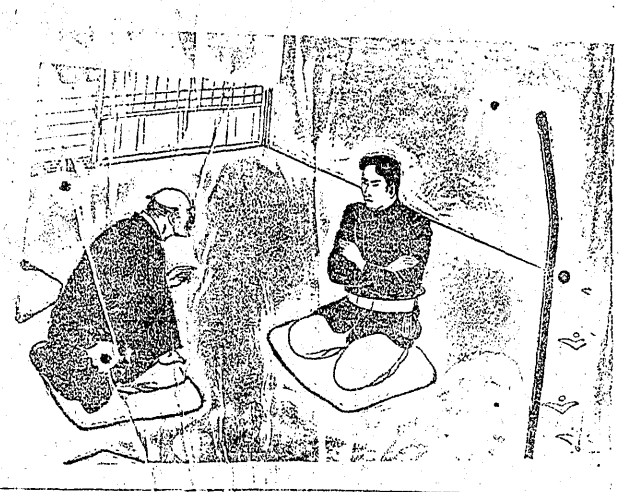
宮游隨處效精誠
高勳超然氷雪清
水産由來移國策
紙當努力答皇明

## 天氣豫報

小名浜測候所調査

今晩　北東の風曇
明日　同じ

刊行
五月三十日發行
定價（郵稅共）一ヶ月金六拾五錢
廣告料金（特等）五段抜一行金九拾錢（以下一段一行金壹圓）
編輯兼發行人　磐城新聞社
田部重治
福島縣平市大字平字鍛冶町一〇六五五八番
日曜祭日發行
東京電話一〇六五五八番



『本當かとは……何が？』
『いまいつた女のこと、茅江が子供を生んでゐるといふのは――金さん、本當のことなのか？』
『うむ』
と、金四郎は、頷いてみせるのである。
『本當だとも。げんに、この眼でハツキリ見て來たのだ。子供の名は何といつたか、それは思ひ出せないが三つか四つくらゐの齡ごろの、とても可愛い子供だつたぞ』
『ふうむ』
『どうし、といふんだ。御さんは考へ込むと、みを見ると、その、ちいとも名い書との間に、何かけがをするのか？』
『いや――いや、なんでもない』
專藏は、金四郎がびつくりをするほどの、激しい打ちが消し方をした。
『なんでもないのだ。それは……』
『そんなことより、御門さんにゆうべ、銀座の何とかいと異人の店で、一仕事やつたそうだが……』
『……』
專藏は、それに答へないで、降りこめる暗い雨の音を聞くやうな目で、ヒツソリと考へ込んだ。
（さうか。ち江が……）
なんだか、本當と信じられない氣がするが、金四郎が嘘をいつとも思へない。
それに、ち江の齡を考へてみても、もう人の子の母となつていさ筈だ。
『いまいつた女のこと、茅江が子供を生んでゐるといふのは――金さん、本當のことなのか？』
『うむ』
と、金四郎は、頷いてみせるのである。
『本當だとも。げんに、この眼でハツキリ見て來たのだ。子供の名は何といつたか、それは思ひ出せないが、三つか四つくらゐの齡ごろの、とても可愛い子供だつたぞ』
『ふうむ』
『どうし、といふんだ。御さんは考へ込むと、みを見ると、その、ちいとも名い書との間に、何かけがをするのか？』
『いや――いや、なんでもない』
專藏は、金四郎がびつくりをするほどの、激しい打ちが消し方をした。
『なんでもないのだ。それは……』
『そんなことより、御門さんにゆうべ、銀座の何とかいと異人の店で、一仕事やつたそうだが……』
『……』
專藏は、それに答へないで、降りこめる暗い雨の音を聞くやうな目で、ヒツソリと考へ込んだ。
（さうか。ち江が……）
なんだか、本當と信じられない氣がするが、金四郎が嘘をいつとも思へない。
それに、ち江の齡を考へてみても、もう人の子の母となつていさ筈だ。

傍にゐる金四郎が何かいつてゐるのを、耳にとめやうともしなかつた。
そこへ、足音がして、扉しよつ引いてまゐりましたと、得々として語る三五郎だ。
『たゞ今歸りました。――どうぞ褒めてやつておくんなさい。あつしは、專藏部屋の吉と一緒に、剃頭十間棚の神崎屋の娘を、うまくて間誤つついて居た時に近く考へ方を、敢て行動に移さうとしたのだ。
結果は――田原金四郎だ。負けたと、いつてゐる。
『ちいッ』
と唇を噛んで、腹立たしい舌打ちを感じたが、その耳に、意外な事實を聞かされた。
茅江が子供を生んだらしい……とは。
『本當か？金さん』
『え』
專藏の事情を知らぬ金四郎には、專藏のものゝ〜しい意氣込方が、解せなかつた。

診療
外科　一般　內臟外科
レントゲン科　泌尿器科
北川外科
夜療
血液檢査（毎日）　平市新川町（電四六四）
◎入院隨時　醫學博士　北川芳夫

吸入用酸素
呼吸困難治療として早くおすゝめ下さい
流行感冒豫防に
（マスク）各種あります
病氣豫知に
（體溫器）各種あります
平市古鍛冶町一〇（縣社下）
阿康藥局
電話四四番
振替東京三〇〇六五番

女店員募集
巻名・通勤・十七才ヨリ二十五才マデ
月給制度・申込五月三十一日マデ……
大黑屋洋品店

小店員募集
四名・住込・十三才ヨリ十八才マデ
獨立資金積立制度……
申込　五月三十一日マデ……
大黑屋洋品店

目項定鑑
命運の代一てみの前名
……るかわもてん何
体力（肉体（健康、不健康、相貌）病根病勢、病名）に關する一切
活動（職業（適業、不適業）天運（天運、成功、不成功、炎厄）に關する一切
血緣（家族運（父母の緣、夫婦の緣、子供の緣）有無
男女緣（氣質、相性、相剋、婚期方位に關する一切
日本姓名學會東北支部長
鵜沼孝昌
平市紺屋町　三六

銀行、會社名、商號、家號、會名、雅號、藝名、養子、養女、姓名、生兒名

此度組織を會社に改め營業の充實を圖ると共に統制下にある吾等は國策に順應して御得意各位様に精々御便宜を計るべく社員一同努力仕るべく候間倍爲の御引立を御願申上候
鐵棒、平鐵、しやふと
鐵管、各種レール類
新品中古入荷仕り候間精々御注文相願度尚諸機械類各種取揃へ御來駕を御待申上候。
敬具
海軍工廠御用達
合資會社　平銅鐵機械商會
平市鍛冶町九（電話五二二番）
電略（イ）又ハ（イ七）
振替東京一五七五二二番
倉庫（平市鍛冶町　丗三番地　平市鍛冶町　九番地）

加奈陀系銀狐、純血エゾ狸
東北系多産種狸、フイッチ日本テン
大型種兎アンゴラ兎、雑子家禽各種
平産業養狸組合事務所
乾産業會社畜産部
國策アンゴラ兎採毛協會
福島縣磐城種畜場
內郷村境（平市外）
出張所　平驛前　電六四八番
分譲所　東京市淀橋區下落合
北里研究所製
◇ジスランバー豚防液
東亞製藥所製
綜合ビタミン劑
◇ヴイベリン末（動物わかもとの稱あり）
◇フイッシミール榮養魚粉
藥品飼料各種榮養劑
病理研究、診療
榮養劑の配劑
飼育指導の需に應
擔任技師　獸醫師

平病院（平市元共濟病院跡）（電話六四一番）
院主　鈴木定藏
院長　醫學博士
內科　院長　鈴木定藏
小兒科　副院長　高橋俊幸
一般內科　院長　鈴木定藏
皮膚泌尿器科
レントゲン科
藥劑科
診療時間……毎日午前八時ヨリ午後九時迄、夜間診療ニ從事ス（急患ハ此ノ限リニアラズ）

耳鼻咽喉科專門
醫學士　鈴木正剛
平市田町（電話五八番）
藤田女學校前
『入院のお勧めに應ず』
（看護婦及び見習看護婦募集）
歯科口腔外科
日本歯科醫學士　鈴木政
內郷村高坂磐炭病院前
鈴木醫院

新車のお知らせ
斷然!!!　乘心地良い!!!
最新型フオード
入車いたしました。
是非！御試乘の程を！
市內四丁目
スヾキタクシー
電二一七番

斷然一賣行よし
信用と品質と共に備つて
平市鎌田町
電話五一
低温殺菌
田園牛乳

産婦人科
井坂醫院
平市田町　電五五九

これは便利！
△手を荒さず
△絹、毛織物、木綿、スフの生地を傷めず
△つけておくだけで洗へる
美マルミ粉末石鹼
製造元　平市材木町一一

お醬油は……ヤマフル
味噌醬油
たひら正宗
調味食料品
醸造
山崎合名會社
福島縣平市
電話（營業部一〇番　店二七番）
明治生命磐城代理店　山崎與三郎

## 恩讐無道

(113)

久我莊多郎

市川三十代藏

南京花火（四）

『――茅江？』
と、金四郎は、專藏がいつか人の名を口移しにしてゐる。
『さうだ。お前の女は、たしか茅江といふ名だつたな』
『茅江？』
專藏は、そうした行動を願り見て、どんなに卑怯な方法であるかといふことは一切考へないことにしてゐる。が、武士らしくないことには相違ない。武士といふ階級が。今にコナ〜にいつてゐるとしかし、專藏の肚の内に德川幕府のためはなしかつた時代の血が、ごめいてゐることに否めない。それにも、異黑な顔を見ると、その、ちいとも名い書との間に、何かけがをするのか？
『いや――いや、なんでもない』
專藏は、金四郎がびつくりをするほどの、激しい打ちが消し方をした。
『なんでもないのだ。それは……』
『そんなことより、御門さんにゆうべ、銀座の何とかいと異人の店で、一仕事やつたそうだが……』
『……』
專藏は、それに答へないで、降りこめる暗い雨の音を聞くやうな目で、ヒツソリと考へ込んだ。
（さうか。ち江が……）
なんだか、本當と信じられない氣がするが、金四郎が嘘をいつとも思へない。
それに、ち江の齡を考へてみても、もう人の子の母となつていさ筈だ。
專藏は、自分の知つてゐる限りの、ち江の面影を思ひ浮べて、それから、ち江の夫である人物を想像してみた。
さすがに、いやな氣持だ。
一度は自分の腕に抱きしめたことのある女であり、當時順調に行つていたなら當然おのれの妻となるべき筈だ。ち江なのだ。それが別の男を夫とし、子供まで成してゐると思へば……。
まさかに、その子供といふのが自分の子であるとは知らない專藏は砂を噛むやうな味氣ない思ひになつて

# 生産力擴充に備へ
## 炭礦其他の勞働調査
### 來月から繼續執行

內閣統計局では來月より全國各工場、鑛山等につき勞働統計毎月調査を實施して時局下勞働者培養、維持、延いては生産力擴充計畫に必要の資料たらしめ勞働階級の消費力の消長を觀察して時局に適應する施設を行ふべき基本資料を整備することになつたので地方でも三大炭礦はしめ各炭礦工場等之れが適用を受くるもの(特に炭礦)が可なる廣範圍に亘るものと觀られて居るもの)の委員は來月十五日附を以て內閣より任命されることとなつた、調査事項は

一、勞働者數＝前月の調査日現在數、一ケ月の雇入數及解雇數、調査期日現在數、

二、賃銀

三、就業時間＝一ケ月の延實就業時間、一日の所定就業時間及所定休憩時間、一ケ月の實際作業日數

で右調査員の任命その他につき近く其筋より係官が來縣諸數の打合せをなす筈である、因に地方炭礦の第一回統計資料は七月中一應所